

音楽

中学校第3学年 「我が国の伝統的な歌唱に親しもう」

●これは、「埼玉県中学校教育課程指導実践事例集 平成24年3月」のP85～87を基に、加筆・修正して作成したものです。
 長唄にふさわしい唄い方や長唄の特徴を知覚、感受し、音楽表現の工夫を図り、長唄のよさを味わう授業です。展開中の①から④は以下の【課題解決のための授業改善の視点】のそれぞれの取組であることを表します。

【課題解決のための授業改善の視点】

- ① 見通しを立てたり振り返ったりする学習活動
- ② 音楽を知覚、感受する学習の充実
- ③ 表現及び鑑賞の能力を高める言語活動の充実
- ④ 学習意欲を高める指導方法の工夫

〔共通事項〕については、
音楽活動を通して、意図的・計画的に指導する必要があります。



【教材】

- ・長唄「勸進帳」 三世 並木五瓶 作詞 四世 杵屋六三郎 作曲
 - ①「旅の衣は篠かけの露けき袖やしおるらん」の部分
 - ②「ついに泣かぬ弁慶も一期の涙ぞ殊勝なる 判官御手を取り給い」の部分

【本時の目標】

- (1) 長唄の発声や唄い方の特徴を知覚、感受し、音楽表現の工夫をする。(音楽表現の創意工夫) 観点①
- (2) 長唄にふさわしい唄い方の技能を身に付ける。(音楽表現の技能) 観点②
- (3) 長唄の豊かな表現を知覚、感受し、長唄のよさを味わう。(鑑賞の能力) 観点③

学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準【方法】 △努力を要する生徒への支援 ★教育に関する3つの達成目標との関連 ◎学力向上プランとの関連
1 前時に録音をした自分たちの長唄を聴く。(一部分)長唄① ・どのように感じたか意見を言う。	・生徒の意欲を高め、本時のねらいを自分たちの課題として捉えることができるように、生徒の意見を生かしながら、本時のねらいにつなげていく。
生徒が課題意識をもてるような工夫をします。本時のねらいの必要感をもたせています。1の場面(導入)では、 ①自分たちの長唄を聴き、課題意識を高める。(この学習指導案) ②前時のワークシートを活用し、生徒の意見を紹介する。(別の案)等が考えられます。	<予想する生徒の発言> ・言葉がはっきりしていない ・お腹から声が出ていない。 ・長唄らしくない。
2 本時のねらい①を確認する。 本時のねらい① 「長唄に合った唄い方」をしよう。	この発言は本時の授業の大切なポイントです。ここでは深追いせず、この発言を生かし、本時のねらい①につなげるようにしていきます。
3 自分たちの長唄と模範演奏を比較聴取し、どのように唄ったらよいか考える。 ・どのように感じたかを話し合う。 ・どのように唄ったらよいかを話し合う。	・聴く観点、話し合う観点を明確にするために、観点を〔共通事項〕の音色、旋律に絞る。 ・旋律については歌詞を拡大したものを活用し、音の高低や産字など生徒の意見をわかりやすく整理して板書する。 ・最初は音だけの提示とし、更に唄い方を生徒から引き出したい場面で画像を見せるようにする。 ★先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができる。
3の場面では、聴く観点を明確にした上で、生徒が知覚、感受する活動から表現の工夫につながるようにします。 聴く観点→〔共通事項〕音色、旋律	<生徒の反応例>①音色について ②旋律について (どのように感じたか) ①(模範演奏の方が)力強く、太い声である。 ②(模範演奏と自分たちの長唄と比較して)音の高さ、長さが違うところがある。 ↓(どのように唄ったらよいか) ①声を前に出す。体を使ってお腹から声を張り上げるように唄う。 ②音の高さ、長さを意識して、真似て唄う。
4 長唄に合った音楽表現をする。(具体的な展開例)	◎3の活動と4の活動を交互に入れ、曲想にあった唄い方を考えることと音楽表現の技能の関連を図りながら、2つの能力をスパイラルに高めていく。
☆教師の働きかけ ○生徒の反応 ①<音色> ☆声を前に出し、お腹の下から唄う感じでやってみましょう。 ↓ 歌唱活動 ↓ ○太い、力強い声になってきました。 ↓ ☆声の感じが変わってきましたね。さらに言葉をはっきりするにはどうしたらいいですか。	話し合いばかりにならないように、唄いながら、試行錯誤しながら知覚、感受する学習を充実させていきます。
	②<旋律> ☆音の高さ、長さが違うところはどの歌詞の部分ですか。また、どのように違いますか。 ○「○○○」の部分の音程が△△△に違っています。(歌詞を拡大したものを使って意見を出し合う) ☆実際に唄ってみて、確認してみましょう ↓ 歌唱活動 ↓ ☆変化が出てきました。他の部分はどうですか

評価だけでなく、更に生徒の思考を促す発問をし、生徒の気づきを大切にします。



◇長唄の発声や唄い方の特徴を知覚、感受し、音楽表現の工夫を考えている。
 観点①【発言内容 ワークシート】
 ◇長唄にふさわしい唄い方をしている。 観点②【発言内容 演奏聴取】
 △よりよい唄い方が考えられるように分かりやすい発問を複数用意しておく。

5 本時のねらい②を確認する。

本時のねらい② 「長唄の様々な表現を感じ取り、長唄のよさを味わおう」

6 2種類の長唄②を比較聴取し、それぞれの長唄の特徴を感じ取る。

演奏① 楽譜通りの拍節的な演奏

演奏② 伴奏は同じだが、唄い方に特徴のある演奏

生徒から引き出したい言葉を明確にし、発問を複数用意しておくことにより、知覚、感受し、鑑賞の能力を高める言語活動の充実を図ることができます。

② ③

・聴く観点、話し合う観点を明確にするために、観点を〔共通事項〕の音色、旋律に絞る。

<演奏②に関して生徒から引き出したい意見>

ア 三味線と唄がずれている。→間、非拍節的な旋律〔旋律〕

イ 弁慶と義経の部分の声の音色が違う

→弁慶は強くて男性的、義経は柔らかくて女性的〔音色〕

<上記の意見を引き出すための発問の工夫>

ア 三味線と唄との関係についてどうでしたか

三味線と唄のリズムはどうでしたか

揃っていましたか、ずれていましたか

イ 弁慶と義経の唄い方はどうでしたか

どのような音色に聴こえましたか

◇長唄のリズムや音色の変化を知覚・感受し、長唄のよさを味わっている

観点③【発言内容 ワークシート】

7 本時の授業の振り返りをする。

・唄い方でできたことや鑑賞して感じたことをワークシートにまとめる。

・生徒が発表し、お互いの考えを共有化する。

本時の授業について、整理して振り返ることができるように、ワークシートの工夫をしています。

①

・生徒の考えを整理できるように、ワークシートの工夫をする。

(ワークシート的一部分、生徒の反応)

○今日の授業、長唄の唄い方でできたことを書きましょう。
 音色、旋律に関して

体を使ってお腹から声を張り上げるような感じで唄ったり、言葉をはっきりさせたりすることで、太い、力強い唄い方になりました。言葉の終わりの音の長さや高さを意識して唄ったことで模範演奏に近づいてきました。

○2種類の長唄を聴いて感じたことを書きましょう。

三味線と唄がずれることがあること、登場人物によって唄い方を変えていることがわかり、表現の豊かさを感じることができました。

○今日のねらいは達成できましたか。「○」をつけましょう。

①長唄に合った唄い方はできましたか (はい・いいえ)

②長唄の様々な表現を感じ取り、長唄のよさを味わうことができましたか (はい・いいえ)

「ねらいは達成できたか」という視点は、生徒にとっても教師にとっても大切です。教師がこのワークシートから生徒の学習状況を把握し、授業改善を図ることが授業力の向上につながります。

①

見通しがもてるように、本時のねらいを板書します。

①

【板書計画】

本時のねらい① 「長唄に合った唄い方」をしよう

本時のねらい② 「長唄の様々な表現を感じ取り、長唄のよさを味わおう」

自分たちの長唄と模範演奏を聴いて

	どのように感じたか	どのように唄ったらよいか
音色	(模範演奏の方が) ・力強く、太い声 ・深い声 ・言葉をはっきりしている	・体を使ってお腹から声を張り上げるように唄う。 ・のどを開いて、一音一音ははっきりと発音する。
旋律	・音の長さや高さが模範演奏と違う	・音の高さ、長さを意識して、真似て唄う。

2種類の長唄の演奏を聴いて

	どのように感じたか
音色	・弁慶と義経の部分の声の音色が違う。 ・弁慶は強くて男性的、義経は柔らかくて女性的に感じた。
旋律	・三味線と唄がずれていた。 ・唄の旋律は拍がない。

たびのころもはずずかけの
 たびのころもはずずかけの
 つゆけきそでや
 むほるらん

【まとめ】

～長唄に関して今日できたこと、感じたこと～

・体を使ってお腹から声を張り上げるような感じで唄ったり、言葉をはっきりさせたりすることで、太い、力強い唄い方になりました。

・言葉の終わりの音の長さや高さを意識して唄ったことで模範演奏に近づいてきました。

・三味線と唄がずれることがあること、登場人物によって唄い方を変えていることがわかり、表現の豊かさを感じることができました。

生徒が考えをまとめたり、振り返ったりする際、板書をわかりやすくしておくことが大切です。本時では、〔共通事項〕を観点とした表にまとめています。

①

参考 中学校学習指導要領解説 音楽編 (文部科学省)
 埼玉県中学校教育課程評価資料 (埼玉県教育委員会)
 埼玉県中学校教育課程指導実践事例集 (埼玉県教育委員会)